

山の手ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン

地域ビジョンとは、ひとまもり・まちまもり協議会がこれからの地域をより良いものにしていくためにはどのように活動すればよいかを示す指針です。将来を見据えたまちづくり活動を行うための体制づくりのきっかけとなるものであり、住民と自治体等が対等なパートナーとして、ともに理想の地域を築くための道しるべです。この度、山の手ひとまもり・まちまもり協議会としての今後のまちづくりの指針となる「地域ビジョン」を策定しました。

■ 地域ビジョン

次の世代へ想いをつなぐ
「自分たちの手で支え合うまち」へ

山の手ひとまもり・まちまもり協議会の
目指す地域づくり

本協議会は、「助け合い・地域の絆」を大切にし、さまざまな課題の解決に取り組む組織として活動しています。別府市の中でも率先して協議会を立ち上げ、デジタル化の推進や、人材育成など積極的に取り組んできました。その結果、地域交流が活発になり住民同士の絆が形成され、日常的にコミュニケーションができる地域になりつつあります。

協議会を次の世代につないでいくためには若い世代の意見やアイデアを積極的に取り入れ、地域の課題に対する新たな視点を加え、より柔軟な活動を行うことが求められています。そのために、新たな世代を中心とした活動を実践し、将来、協議会の中心メンバーとして活躍する人材の発掘と育成に力を入れていきます。また、「自分たちのまちは自分たちの手で」の合言葉のもと、誰もが参加しやすい環境をつくり、世代を超えた協力体制を築いていきます。

地域の伝統や文化をまもりながら、革新的な活動に挑戦し続けることで、これからも地域の発展と、住民のための協議会を目指していきます。

■ひとまもり・まちまもり協議会とは

ひとまもり・まちまもり協議会は、多様な人や団体が連携して、住民が力を合わせて主体的に地域づくりを行う新たな地域コミュニティです。地域住民が中心となって、地域の特性をいかながら連帯感を高め、将来を見据えた地域づくりを行っています。自治会を含めた多様な主体や幅広い人材が連携・協力することにより、様々な課題に対して、ネットワークをいかした自主的・効果的な取組が期待できます。

地域ビジョン策定について

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するためにワークショップを実施しました。山の手ひとまもり・まちまもり協議会の現状と課題についての整理を行い、活動するうえでの活動目標と活動方針を整理しました。

■ 山の手ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標

活動目標①	幅広い世代が活躍する地域づくり
求められていること	●若い世代のアイデアを積極的に取り入れる ●活動を通して新しい世代を育成する ●参加しやすい活動にすることで気軽に声をかけあえる関係をつくる
活動方針	新たな意見を積極的に取り入れることで、多世代が積極的にかかわりたくなる組織にし、住民全体での地域づくりを実現します。

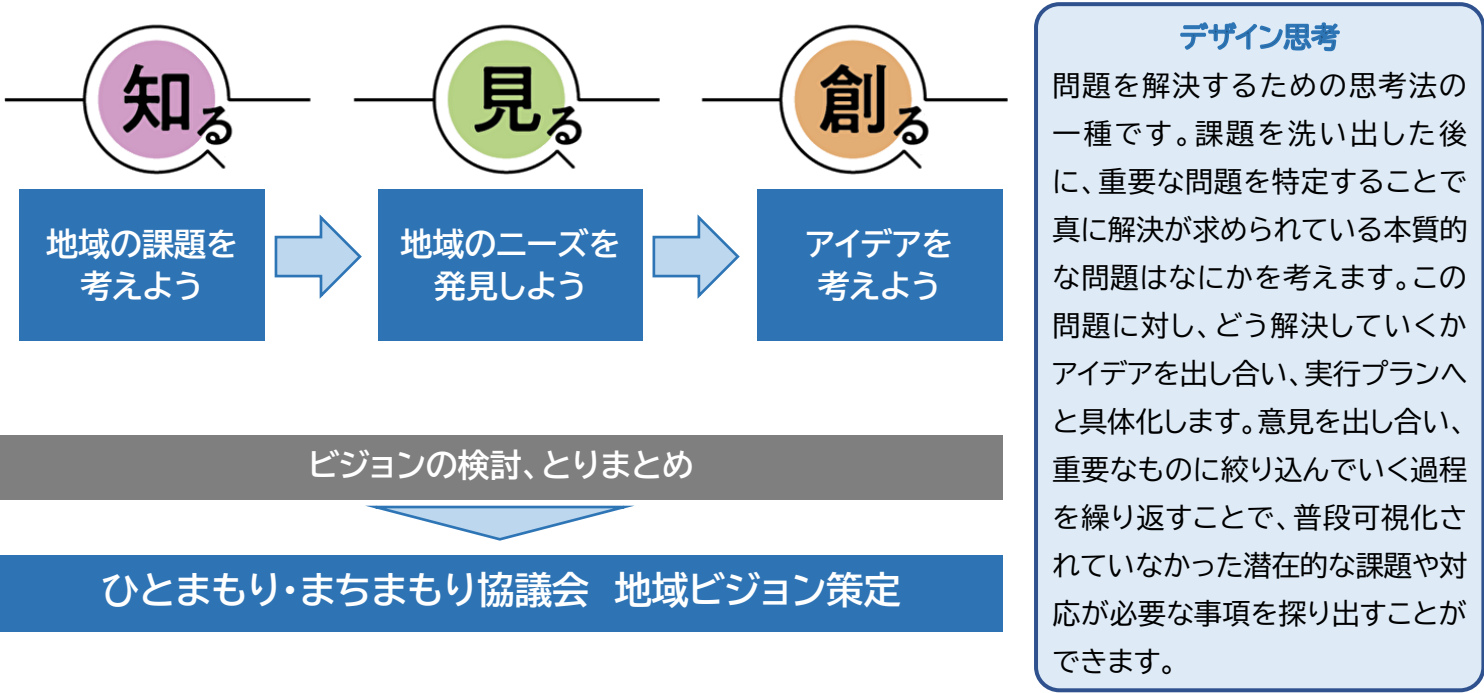
活動目標②	地域行事の変化と新しい取組
求められていること	●取組の目的や目標を明確にする ●必要に応じて活動の見直しを検討する ●時代に合わせて活動を柔軟に変化させる
活動方針	時代に合わせて活動を変化させていくことで、既存の枠組みを超えた新しい取組にチャレンジします。

活動目標③	子どもが誇りに思う地域づくり
求められていること	●子どもが中心となり活躍できる活動 ●親世代の参加を促す方法を探る ●PTA や学校との連携
活動方針	子どもや親世代が地域を誇りに思い、将来のために積極的に活動に参加したいと感じる地域にします。

活動目標④	地域のデジタル推進と情報発信
求められていること	●デジタル発信方法やケーブルテレビの活用の幅を広げる ●若者を取り込む情報発信方法を検討する ●公式 LINE の活用を促進する
活動方針	多様な手段を用いて効果的な情報発信を行い、幅広い世代に必要な情報を届けていきます。

課題解決ワークショップの開催について

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するために、「持続可能なまちづくり」をテーマとし、デザイン思考を用いた「課題解決ワークショップ」を全3回にわたり実施しました。



山の手ひとまもり・まちまもり協議会の概要

地区の基本情報

設立	平成 30 年6月25日
事務所	別府市中島町 7 番 49 号 別府市立別府西中学校内 コミュニティールーム(通称:山の手村)
構成団体	自治会(野口・青山・西23自治会)、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、青少年育成協議会、体育協会、防災士会、地域包括支援センター、教育機関(小学校、中学校、PTA)、協力団体(消防団・交番・有識者 他)
該当地区	幸町、富士見町、野口中町、野口元町 1・2 区、駅前本町、駅前町、中央町、西野口町、田の湯町、上田の湯町、青山町、上原町、山の手町、原町、中島町、光町 1・2・3 区、朝見一丁目 1 区、朝見二丁目、朝見三丁目、乙原
面積	約 3.44 km ²
人口	山の手地区全体:16,651 人 15 歳未満:1,695 人 15~64 歳:9,044 人 65 歳以上:5,912 人 (令和6年7月末現在)
高齢化率	35.5%

〔別府市内図〕

「課題解決ワークショップ」で出た主な意見

第 1 回

知る

ワークショップの中で山の手地区に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題は何なのかを考えました。

■ワークショップで挙げた課題

キーワード： **人材、役員のなり手不足**

実際の
意見

- 子育て世代に地域づくりに参加してほしい
- イベントの参加者から運営側に回ってほしい
- 持続的な人材確保につながっていない
- 次世代の担い手が少ない

キーワード： **地域行事**

実際の
意見

- やり方を変えないと若者が参加しない
- イベント等がただの押し付けになっていないか、一緒につくっていく

キーワード： **つながり、人間関係、コミュニティ**

実際の
意見

- 非常時に備えて平時から人間関係を構築していくことが重要
- 防災以外で人を集めるのが難しい
- 地域の子ども会がなくなって若い世代のつながりが無い
- 今の時代に合った若者・子育て世代の取組が必要
- 習い事などがあり時間が取れない

キーワード： **協議会のあり方**

実際の
意見

- 地区の課題を見つけ、対策を講じなければならない
- 協議会で課題を共有しなければならない
- 協議会の人のつながりを強化する

キーワード： **その他**

実際の
意見

- 共同温泉の再活用を考える必要がある
- 単身・独居世帯の住民が多い
- 空き家が増えて管理ができていない

第 2 回

見る

山の手地区が目指すべき姿を考えました。

第 3 回

創る

山の手地区が実際に取り組みたいアイデアを出し合いました。

アイデア A

子どもが主体的に活動できる
子どもコミュニティがあるといいね！

目指すべき姿

幅広い世代が活躍する地域にする

アイデア C

気軽に声をかけ合えるように、日頃から
名前呼び合うのは
どうかな？

アイデア B

子どもたちが運営主体となつて音頭大会や歩こう会を開催してみても
どうだろう？

住民が関心を持てるような
情報発信をする

アイデア D

交流の場として、
ものづくり教室や
ギネス記録の大鍋大会は
参加者が増えそうだね！

子どものために
できる活動を考える